

横浜市立さちが丘小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・算数を重点教科として採り上げ、学年での指導計画研究を中核として、授業研究会を行いながら、授業における言語活動の在り方を探る。	・熱心に重点研究に取り組むことができ、授業実践の中で算数のよさを感じ取る児童を増やすことができた。成果を他の教科指導にも活用したい。	A ⓐ C D
2 豊かな 心	・たてわり活動の機会および質的な充実を図り、互いを思いやる気持ちを育む。 ・地域との交流を学習に取り入れ、その方々に感謝の気持ちをもつ。	・たてわり活動と年間の人権教育計画の活動を組み合わせ、他者を知り、思いやりの心をもつことへの指導の機会を充実させた。さらに活動の方法を拡充させていきたい。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・ロング昼休みを活用し、屋外で遊ぶ楽しさを味わわせながら、様々な新しい動きの経験を増やすようにする。	・体育委員会の活動としてロング昼休みを活用し、全校児童が様々な種類の動きに楽しみながら取り組むことができた。取組を継続していきたい。	A ⓐ C D
4 教育課程 学習指導	・基礎・基本の充実のために授業のスタンダードを全学級で統一し、課題の明示と振り返りを行うことで学力の向上につなげる。	・多くの学級で、授業の柱立て、板書の方法、ノート指導が徹底されるようになってきた。児童も学び方が身につく、安心して学習に取り組んでいる。さらに地域の課題を学習材としたい。	A ⓐ C D
5 特別支援 教育	・より実効性のある支援あり方を目指して、組織を改編し、3部会の情報交換を密にしながら、一人ひとりの実態に合った支援方法を職員全員の共通理解のもと探る。	・担任を中心として、児童支援専任教諭その他の教員がチームを組み、スピード感をもって支援の必要な児童の対応にあたることができた。校内でのケース会議の充実を図ることができた。	A ⓐ B C D
6 児童生徒 指導	・重点目標を「あいさつを進んでする子」とし、教職員が率先して行うとともに、学級や児童会での取り組みを具体化し、推進する。	・生活年間目標は「あいさつ」を柱とし、児童、教職員が一体となって取り組んだ。達成度は職員それぞれで評価がまちまちであり、定まるところまではいっていない。	A B ⓐ D
			A B C D
7 人材育成 組織運営	・適材を適所に配置し、各人の創意工夫を採り入れ、尊重し、学校運営に参画している自己有用感を育てるようにする。	・特に若い職員の育成に注力し、主任級のポジションにつけてその意欲と活力を発揮させることができた。経験が自信となり、向上につながった。職員間の連携をさらに図っていきたい。	A ⓐ B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・学校全体に落ち着いた様子があり、指導が児童に浸透しているのではないかと。 ・算数の研究は、研究の形態に特色があり興味深い。研究の成果がどれだけ学力学習状況調査に反映されているのか分析してほしい。 ・中1ギャップのないように、ブロック内各校の連携と情報交換が様々なレベルで今後も必要である。
学校関係者 評価結果	・あいさつがよくできている。まちの中でもよく声をかけてくれる。 ・子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見える。 ・言葉の使い方はどうか？正しい使い方ができているのか、学校でしか教えることができないので、授業の中でしっかりと指導してほしい。
評価結果に 対する 学校の見解	・登校時のあいさつは朝早いいためか元気が今一つないが、校内では大変元気なあいさつができるので、引き続き「あいさつ」を教育活動の根幹に据えて指導したい。 ・言葉の指導は学習指導の基本なので、教員が正しい言葉遣いで指導し、言葉の大切さ、重さについて子どもたちに伝えていきたい。

学校経営 中期目標 達成状況	・子ども一人ひとりの実態を把握し、まず、基礎的基本的事項の定着に重点を置く指導を中心とした。学力のベースをしっかりとさせて活用の育成に向かいたい。 ・受容的、共感的な支援のもと、充実した特別支援教育の実践が順調に進んでいる。様々な課題をもつ児童が多いので、今後もチーム力の向上を図り、対応力を職員全体で高めていきたい。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・算数科重点研究の三年目。研究主題は一貫しているが、サブテーマは算数的活動の重視と数学的な表現力を高めていくことを目指し、低中高学年ブロックで研究を深めていく。	・算数の校内重点研究を三年間行い、本校としての授業スタンダードが確立できた。児童の学習意欲も高まり、教師の自信もついてきたが、今後、教師の入れ替えが不安材料である。	A ⓐ C D
2 豊かな 心	・年間を通して「挨拶」を指導の重点とし、よい人間関係を築いていく。 ・たてわり活動の充実を図り、思いやりの心を養い助け合える。 ・地域への感謝や積極的な関わりを進める。	・挨拶については捉え方に差を感じるが、私は比較的良好にできていたと判断する。児童数の多い学校で子どもたちは、よりよい人間関係を築いていく努力を続けていた。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・ロング昼休みを活用し、屋外で遊ぶ楽しさを味わわせながら、様々な新しい動きの経験を増やすようにする。 ・自らの生活習慣に関心をもつ。	・多くの児童は時間を無駄にせず外遊びに興じ、体を動かしていた。 ・家庭の協力もあり、自らのよい生活習慣が身につくようになった。	A ⓐ C D
4 教育課程 学習指導	・学習の基礎・基本の確かな定着のため、「授業のスタンダード」を全学級で統一し、課題の明示と振り返りを行うことにより学力の向上につなげる。	算数の重点研究を中心に、授業のスタンダードができ、経験の浅い教諭も落ち着いて一定の授業を進めることができています。今後は、それに創意工夫が加われば素晴らしい。	A ⓐ C D
5 特別支援 教育	・児童支援専任を窓口として、特別な支援を必要とする児童の情報を集め、関係諸機関と連携しながら、その子にとってより安心して学校生活が送れるよう、全教職員で支援していく。	・児童支援専任を中心に組織的に動くことができ、個別支援や取り出し指導、別室登校児童への支援にも、全教職員一丸となって当たることができ、大きな手ごたえを感じた。	A ⓐ B C D
6 児童生徒 指導	・教師の「チームさちが丘」では専任を中心にいち早い情報の把握と分析、対応を行うこととし、児童の代表委員会とも協働して、よりよい学校生活のための支援を続けていく。	・「さち小スタンダード」をもとに、月一回の定例会で問題点を出し合い、その都度共通理解を図り、児童へ対応してきた。よい点についても児童へ返してきた。	A ⓐ C D
			A B C D
7 人材育成 組織運営	・適材を適所に配置し、各人の創意工夫を採り入れ、尊重し、仕事に対する個人のモチベーションを高めながら、学校運営に参画している自己有用感を育てていくようにする。	・教職員の活動を最大限に尊重してきた。各人が責任感をもって誠実に職務を遂行していた。その結果、大きな学校ではあるが、遅滞なく学校運営が行えている。	A ⓐ B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・全体的に落ち着いた様子があり、指導が児童に浸透している。今後も、主体的にかかわれる子どもへと導いてほしい。 ・算数の研究を通して、児童の意欲の高まりと学力の向上、教師の指導力向上が成果として表れている。 ・中一ギャップ軽減のため今後もブロック内各校の交流と連携、情報交換が必要。
学校関係者 評価結果	・各クラスがそれぞれ活気がある。児童の「聞く力」が優れている。 ・子どもたちの感受性が鋭く、心が育ってきている。 ・掲示物や授業態度などから、子どもたちの成長を感じることができた。 ・作品展では、自分の思いを自由に表現していた。 ・大規模校のよさを活かして、今後も教育活動を充実させてほしい。
評価結果に 対する 学校の見解	・皆様の声を真摯に受け止め、今後も改善にあたっていきたい。 ・学校・家庭・地域が連携して、さちが丘小学校を創ってきた。これからも、この連携をさらに強めて、より良い学校を創っていきたい。

学校経営 中期目標 達成状況	・特別支援教育の充実や人材育成の面では少しずつ成果あがりつつあると考えるが、児童一人ひとりの学力の保障や心の育成については、大規模校としての全体のよさを活かしつつも、小回りが利く対応を心がけ、一つ一つの課題解決にあたっていく。 ・なによりこれら目標達成にあたっては、教職員の方向性や意志の統一が不可欠で、より一層チームとしての組織的な対応が重要である。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・心機一転、本年度からは校内重点研究として「生活科・理科」を取り上げた。新しい学習に対する探究心を創造し、「意欲的に自ら考え実践できる子」を育成していく。	・昨年までの算数科がベースになり、学年として研究を深めることができた。今後も意欲的に問題解決に取り組める展開を模索していきたい。 ・市学状の活用にも着手した。	A ⓐ C D
2 豊かな 心	・大規模校の児童数の多さを良さと捉え、さらに人間関係を広げさせていく。たてわり活動や兄弟学級、積極的な地域とのかかわりを奨励し、人の多様性を学ばせたい。	・新体力テスト、運動会、集会、読み聞かせ、年間を通した挨拶運動などをベア学年で活動し、交流を深めてきた。また、野菜の育て方を教わったり昔遊びを教わったりと各学年で地域の方と交流をもてた。	A ⓐ C D
3 健やかな 体	・例えば長縄など、学年や学級ごとに年間を通して取り組む体力づくり活動を設定し、目標を立ててチャレンジさせていく。	・「外遊びをする子を増やす」を目標に、ロング昼休みに体育委員会を中心に色々な運動や体力作りに取り組んだ。だんだんと外遊びをする子が増えてきている。	A ⓐ C D
4 教育課程 学習指導	・今まで培ってきた本校の授業のスタンダードを継承し、異動者にも伝え、さらに確かなものとしていく。地域などを活かして、新たな教材開発にも教師の創意工夫を求めている。	・算数科の授業のスタンダードを今年の重点研究の理科にも活用し、他教科でも取り組むように努力してきた。町探検での出会いや多くの職員が地域行事に参加したことから、新しいつながりができ、新たな学習を展開することができた。	A ⓐ C D
5 特別支援 教育	・個別支援を必要とする児童は年々増加している。学生ボランティアや保護者ボランティアなども積極的に活用し、より手厚い支援を模索していく。教職員の研修も計画する。	・本年度から特別支援担当教諭による「ひまわりルーム」での個別の学習支援が本格的に始まった。また、専任や学生ボランティア等が教室に入り、児童が楽しく学ぶ支援も行ってきた。外部講師を招いて研修を数回行い、具体的な支援の仕方を学び教師力の向上に努めてきた。	A ⓐ B C D
6 児童生徒 指導	・指導にぶれがないことと、矛盾するかもしれないが指導に個別の理由にも配慮する両面から、機械的ではない心ある温かい指導を進める。	・児童指導委員会で問題を出し合い、共通理解を図り児童に対応してきた。気になる子については、専任や関わる学年を中心に児童の様子や課題を把握して、職員全体で支援に努めてきた。	A ⓐ C D
			A B C D
7 人材育成 組織運営	・メンターチームの活動は自主的で素晴らしい。これを維持しながら、ミドルクラスのモチベーションを高め、教職員が有機的に活動できるように努める。	・メンターチームの研究の充実により、教職員全体のモチベーションや指導力もさらに向上した。各人がそれぞれの力を発揮し、安定した学校運営が行われた。	A ⓐ B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・全体的に落ち着いた様子がある。ふれあいを大切にした活動を継続してほしい。 ・理科・生活科の研究を通して、児童の意欲の高まりと学力の向上、教師の指導力向上が成果として現れつつある。今後、カリキュラム運営や改善も目指してほしい。 ・中一ギャップ軽減のため、連続性を意識し、ブロック内各校の交流と連携、情報交換、共有を推進していく必要がある。
学校関係者 評価結果	・各クラス共に落ち着きがある。掲示物や教室内の整理整頓も学級差はあるが、比較的良くできている。コミュニケーション能力を高める授業が見られた。 ・習字や絵画も丁寧でしっかりと取り組まれており、皆、うまい。 ・学校外での子どもたちの生活の様子を見ても、のびやかである。 ・「こども110番の家」の活用についてさらに児童へ周知を図ってほしい。
評価結果に 対する 学校の見解	・それぞれの学級担任が学習指導や児童指導に力を尽くしているが、やはり経験年数の違いもあり力量の差がみられる。そこで学年チームとして、お互いを補い合い共に質の高い教育が行えるよう、さらに努力していく。 ・地域との連携はかなり行われてきたと思われる。今後も推進したい。

学校経営 中期目標 達成状況	・特別支援や個別支援等、児童のニーズに合った教育を提供できるよう校内組織を整え、まだまだ不十分ではあるが動きだし、少しずつ定着しつつある。この方向性は本校教育の柱としても今後も維持発展させていきたい。 ・教職員の若年層化で今まで以上に人材育成が急務である。自分の仕事をしっかりとこなせばそれでよいという時代は終わり、若年層であっても組織の一員としてチームを組み、適材適所で活躍を図っていくことが学校の活性化につながる。
----------------------	--

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要